

営農情報（小麦）

第48号 令和4年1月31日
福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

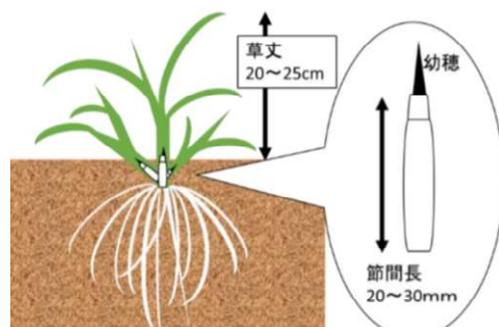
11月下旬を中心に播種され、全体的には生育は順調です。

なお、本年は10月に降雨が少なく、乾燥した状態で荒起こしが行われ、細かく碎土されたほ場が多いようです。この様なほ場では、11月下旬の雨で地がしまったことから、深播きほ場を中心に発芽不良が見られます。

2 麦踏み

麦踏みは、3葉期～節間伸長開始期（2月下旬ごろ）までに、3～4回実施します（晩限は右図を参照）。早めに播種した麦は、茎立ちが早まり凍霜害を受け易いので、土入れで成長点を保護した上で麦踏み回数を増やし、生育を抑えます。土壌水分が高い状態で麦踏みを行なうと、土が締めつけられ生育を抑制するため、十分乾燥した状態で行います。

※土入れと合わせて麦踏みを行なう場合は、土入れを先に実施し、その後に麦踏みを行います。



麦踏み晩限：草丈 25cm 程度

3 土入れ

倒伏防止や排水対策、雑草防除のため、土入れを3月上旬頃（茎立ち期ごろ）までに2～3回実施します。麦踏みと同様に土壌が乾燥した状態で行います。なお、土入れの量は麦の生育に応じて調整し、麦踏み直後は避けます。（麦踏み後に実施する場合は生育が回復するまで空けます）



土壌が乾燥した状態で実施

4 排水対策

麦は湿害に弱く、排水不良田では根傷みや生育ムラ、枯熟れ等が生じます。土入れの後は、畝溝と落水口をつなぎ、ほ場に水が停滞しないようにします。雨の後に、雨水が停滞している箇所がないか、確認しましょう。



枕地をとおして落水口へつなぐ

5 追肥

出芽が揃っているほ場では、基準量の追肥を1月下旬頃に行います。なお、出芽が1月上旬ごろまで遅くなったほ場や、深播き等で出芽の揃いが悪いほ場では追肥一発肥料を使用せず、2月下旬～3月上旬に生育に応じて、NK2号を10～20kg/10a程度施用します。

6 雑草防除＜広葉雑草対策＞

雑草の種類に合った薬剤の選択が必要です。ほ場の雑草を確認し、こよみや下記を参考に雑草防除に取り組みましょう。また、薬害防止と除草効果安定のため、薬剤散布直前～散布後1週間以内の麦踏み・土入れは避けます。

薬剤名	適用雑草	使用時期	10a 使用量	備考
ハーモニー 75DF	ス ^メ ノテッポウ、 一年生 広葉雑草	節間伸長前まで	5～10g (水 100L)	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、ハーモニー剤が効かない抵抗性ス^メノテッポウが出ています ・ハーモニー細粒剤 F とハーモニー75DF はいずれか1回しか使用できない ・<u>タ^テ類</u>に効果が高い ・カラスノエンドウへの効果劣る
	一年生 広葉雑草	(小麦)節間伸長開始期～ 穂ばらみ期 (ただし収穫 45 日前まで) ※大麦は、節間伸長前までし か使えません	3～10 g (水 100L)	
アクチノール B 乳剤	一年生 広葉雑草	穂ばらみ期まで 目安：1月中旬～3月上旬	100～200ml (水 100L)	<ul style="list-style-type: none"> ・カラスノエンドウに効果が高い ・キノコ^ウ類への効果劣る ・高温時は薬害を生じやすいため注意する
バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	麦類の生育期 (小麦：収穫 45 日前まで) ※大麦：収穫 90 日前まで) 目安：1月中旬～2月上旬	100～200ml (水 100L)	<ul style="list-style-type: none"> ・キノコ^ウ類に効果が高い ・カラスノエンドウへの効果劣る ・散布後の降雨で効果劣る ・高温、晴天時に効果が高い

※散布水量は、10aあたり100リットルです。

※農薬の散布にあたっては、近隣にある他作物、住居などに注意してください。

～「慣れ」と「油断」が事故を招きます～
”安全”な農作業と農薬使用を徹底しましょう！